

こども安全対策分科会

課題1	<p style="text-align: center;">＜乳幼児＞</p> <p style="text-align: center;">・0～4歳の救急搬送件数が多い ・養育者のヒヤリハット経験が多い</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
<p>養育者への啓発</p>	<p>① 実施者・協働者 区役所、保育施設、地域子育て支援拠点、地域の訪問員、分科会委員</p> <p>② 対象 主に0歳から4歳児の養育者</p> <p>③ 実施内容 ・事故予防啓発用の クリアファイルやリーフレットの配布 ・地域育児教室での保健師による ワンポイントアドバイスの実施 ・乳幼児健診時での 事故予防チェックリストの配布 ・事故予防に関する養育者向けアンケートの実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 養育者向けアンケートについて、3歳児の回答結果をとりまとめたことで、養育者の意識・行動の経年による変化を把握することができた。</p>	<p>《配布数》 ファイル：404部 リーフレット：722部</p> <p>《参加者数》 102人</p> <p>《配布数》 1,604人 （個別委託乳幼児健康診 査（特例措置）は除く）</p> <p>《回答者》 4か月児：102人 1歳6か月児：101人 3歳児：134人</p>

課題2	<p style="text-align: center;">＜学齢期＞</p> <p style="text-align: center;">小学校内で起きた事故は大人の目が行き届かない</p> <p style="text-align: center;">「休憩時間」に発生することが多い</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
<p>子どもへの注意喚起(KYT(危険予知トレーニング)の実施)</p>	<p>① 実施者・協働者 子ども会、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 主に小学生、KYT指導者（地域の方）</p> <p>③ 実施内容 ・分科会委員がKYT講習会を体験する機会を設け、それぞれの所属団体の取組への活用を検討 ・子ども会や放課後施設を中心にイベント開催時に合わせたKYTの実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 KYTの実施が浸透している放課後施設（市立小学校に設置）からの要望を受け、新たなKYTツールを作成したことで、子どもたちがマンネリ化に陥ることなくKYTを継続体験できる環境を整えることができた。</p>	<p>子ども会 ≪実施回数≫0回 ≪参加者≫0名</p> <p>放課後施設 ≪実施回数≫28回 ≪参加児童数≫584人</p>

課題3	<p style="text-align: center;">＜学齢期＞ 「怖い人と会う」のは家や学校の周辺である</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
地域の住民による見守り	<p>① 実施者・協働者 地域住民、保護者（PTA）、区役所、分科会委員</p> <p>② 対象 主に小学生、中学生</p> <p>③ 実施内容 ・地域住民や保護者による登下校時の通学路の安全見守り ・「こども110番の家」の登録を呼びかける活動（新入生保護者説明会や地区懇談会など） ・小中学校でのあいさつ運動、子どもたちの地域行事への参加 ・安全安心な地域づくりに関する学校（児童生徒向け）アンケートの実施 ・栄区オリジナル連絡帳の配布</p> <p>④ 過去一年間の改善点 取組の効果を検証するため、子どもたちへのアンケートを継続実施した。（地域の大人との「顔の見える関係づくり」が進められ、安全安心な地域であると感じているかを確認した。） また、アンケートの実施計画を見直し、3年で全校を一巡することとし、アンケート結果に地域性の偏りが出ないようにした。 子どもの事故やけがの予防意識の啓発を行うために、栄区オリジナル連絡帳を、区内小学校の1～6年生に配布した。</p>	<p>≪参加者数≫1,250人</p> <p>≪登録軒数≫2,415軒</p> <p>≪実施回数≫ 1回</p> <p>≪回答者数≫ 小学5年生：305人 中学2年生：279人</p> <p>≪連絡帳配布数≫ 6,650部</p>

スポーツ安全対策分科会

課題1	＜全年代＞スポーツ活動時の準備運動不足、技術不足	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
けが予防講習会の開催	<p>① 実施者・協働者 栄区体育協会、栄区スポーツ推進委員連絡協議会、栄区青少年指導員協議会、さわやかスポーツ普及委員会、NPO法人さかえスポーツくらぶ、スポーツ安全対策分科会</p> <p>② 対象 分科会構成団体、栄区民</p> <p>③ 実施内容 各団体及び分科会において講習会・講演会を実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 広報よこはま7月号の特集で、区民が自宅で取り組めるけが予防について周知した。一方、例年各分科会構成団体が自主的に実施しているけが予防講習会は、新型コロナウイルス流行のため活動自粛となり実施できなかった。 スポーツ安全対策分科会は、令和元年度に慶應義塾大学スポーツ医学研究センター^(注1)から提案をうけた「運動中のけがや事故の予防のための取組」を区民へ周知するため、講師をソフトテニスの活動場所へ派遣し、講習会を実施した。 <small>(注1) 運動中のけがや障害の予防、スポーツと健康維持増進や疾病予防との関係について、医学・運動生理学など多方面な視点から研究する施設</small></p>	<p>≪実施回数≫ 1回(スポーツ安全対策分科会講習会)</p>

課題2	＜20代～70代以上＞日頃の運動不足	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
ウォーキングの推進	<p>① 実施者・協働者 スポーツ安全対策分科会、区役所</p> <p>② 対象 分科会構成団体、栄区民</p> <p>③ 実施内容 ・ウォーキングの効果を周知するポスターやチラシの配布</p> <p>④ 過去一年間の改善点 けが予防講習会の内容を記載したチラシや、新型コロナウイルス感染に注意しながら安全にウォーキングができるよう周知するポスター・チラシを配布して、ウォーキングを推進した。</p>	<p>≪配布数≫2,050部</p>

交通安全対策分科会

課題1	＜こどもの交通事故＞ 自転車事故への対策	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
自転車ヘルメット着用啓発	<p>① 実施者・協働者 交通安全対策分科会、区内小学校・保育園、スクールゾーン対策協議会、区役所</p> <p>② 対象 12歳以下の子ども及び保護者</p> <p>③ 実施内容 ・小学校・保育園への自転車ヘルメット着用を促す啓発チラシ（区内の自転車販売店と協力し、自転車の無料点検や、幼児・児童向け自転車用ヘルメット割引などのサービスが受けられる特典付き）配布 ・区内市立保育園（4園）の保護者に対し、子どもの自転車用ヘルメット着用率調査アンケートの実施 ・区内市立小学校（4校）の全校児童に対し、自転車用ヘルメット着用率調査アンケートの実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・小学生を対象に自転車用ヘルメット着用率調査アンケートを実施し、小学生の実情を把握した。</p>	<p>《配布数》 6500部</p> <p>《回答数》 162人</p> <p>《回答数》 1235人</p>

課題2	<p style="text-align: center;"><こどもの交通事故> 登下校時の事故への対策</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
スクールゾーン対策	<p>① 実施者・協働者 スクールゾーン対策協議会、自治会・町内会、栄交通安全協会、栄交通安全母の会連絡会、各種団体の見守り隊、栄警察署、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 栄区内小学校（14校）</p> <p>③ 実施内容 ○各校のスクールゾーン活動との連携 ・スクールゾーン活動説明会開催（書面開催） （各校へ活動の概要等、資料の送付） ・学区内の危険箇所調査、要望書作成への支援 ・警察・土木事務所・区役所の3者会議開催 （要望に対する対応内容、対応予定の確認） ・要望対応予定を各校へ回答</p> <p>○分科会委員への情報提供、意見交換 ・スクールゾーン対策協議会の概要、具体的な要望内容、対応の紹介</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・コロナウイルス感染拡大防止対応により各校でのスクールゾーン対策協議会は止め、各校と行政機関が、危険箇所について要望の内容と対応を書面でやりとりをするかたちをとった。対応の内容を決定するうえで、警察、土木事務所、区役所の3者が事前打合せが必要となり、十分な情報共有ができた。</p>	<p style="text-align: center;"> 《改善箇所数》 43箇所 </p>

課題3	<高齢者の交通事故> 自動車事故への対策	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
高齢者交通安全教室	<p>① 実施者・協働者 栄交通安全協会、栄交通安全母の会連絡会、栄区シルバーリーダー連絡協議会、栄警察署、分科会委員</p> <p>② 対象 65歳以上の高齢者</p> <p>③ 実施内容 ・交通安全教室や安全運転講習の実施 ・チェックリスト等の結果による専門機関の受診や免許返納の検討の促進啓発</p> <p>④ 過去一年間の改善点 栄警察から、実際の高齢者の交通安全教室の内容等について分科会で紹介してもらい、情報共有できた。</p>	<p>《実施回数》 2回</p> <p>《参加者数》 60人</p> <p>《免許返納数》 797件</p>

児童虐待予防対策分科会

課題1	<地域への虐待防止啓発・親への情報提供> 子育てに自信を持たず、不安を抱える母親が数多くいる	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
さかえっ子の 笑顔ひろげ 隊	<p>① 実施者・協働者 主任児童委員・地域子育て支援拠点、区社会福祉協議会、分科会委員、フレンズSAKAE、区役所</p> <p>② 対象 地域住民、関係機関</p> <p>③ 実施内容 ・身近な地域に出向いての児童虐待防止啓発や見守り活動の周知 ・子育ての相談先の啓発活動実施</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・子育て関連イベントを活用した啓発活動の実施 ・従来実施していた「ふれあい体験」は中止。 コロナ禍でも実施できるプログラムを考察した。</p>	<p>≪実施回数≫16か所 ≪対象人数≫434人</p>
こんにちは赤 ちゃん訪問	<p>① 実施者・協働者 区役所、こんにちは赤ちゃん訪問員、分科会委員</p> <p>② 対象 生後4か月までの乳児がいるすべての家庭</p> <p>③ 実施内容 ・訪問員（主任児童委員、分科会メンバーなど）が訪問し、地域の子育て情報を提供 ・地域での見守り活動</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・妊娠期からの事業周知による訪問率の向上</p>	<p>≪訪問件数≫ 722件（訪問率 101.0%） コロナ特例で13か月 分の集計のため</p>

課題2	<p style="text-align: center;"><関係機関の連携強化・親への専門的支援> 児童虐待に至るリスクを抱えている養育者が存在している</p>	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
栄区虐待防止連絡会	<p>① 実施者・協働者 区役所</p> <p>② 対象 栄区児童虐待防止連絡会委員 ・民生児童委員、主任児童委員、学校関係者、幼稚園・保育園関係者、自治会・町内会関係者・医療機関、教育委員会、児童相談所、分科会委員他24団体、40名で構成</p> <p>③ 実施内容 ・児童虐待の現状、栄区の子育て支援、地区の子育て支援に関する情報共有、意見交換</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・新型コロナウイルス感染症対策のため全体会を书面開催とした。感染症拡大防止目的で、地区別連絡会は中止とした。</p>	<p>《実施回数》 全体会：年1回</p>
専門家による早期対応	<p>① 実施者・協働者 区福祉保健センター保健師、助産師、社会福祉職等</p> <p>② 対象 主に妊娠期、乳幼児時期の子ども及び養育者</p> <p>③ 実施内容 ・母子健康手帳交付時の看護職による全数面接 ・EPDS高得点者及び育児不安を抱える養育者の支援 ・児童虐待に対する早期対応、支援等</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・育児不安の軽減を図るための個別相談、教室プログラムの見直し</p>	<p>《母子訪問員による第1子への訪問実施件数》267件</p> <p>《児童虐待対応件数》143件</p> <p>《個別ケース検討会議実施数》：27件</p>

高齢者安全対策分科会

課題1	高齢者の転倒・転落事故が多い	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
転倒予防に資する取組	<p>① 実施者・協働者 分科会委員、元気づくりステーションリーダー、栄消防署、民生委員、保健活動推進員、地域包括支援センター、区役所</p> <p>② 対象 元気づくりステーション所属メンバー、元気づくりステーション・筋トレ自主会・地域ケアプラザ講座等の参加者、地域サロン等の参加者</p> <p>③ 実施内容 ・元気づくりステーションの普及 ・転倒予防の重要性や転倒予防体操実技の啓発 ・住環境改善の啓発…「転倒予防で健康長寿!!」チラシにて啓発。 ・転倒予防体操の動画を作成しYouTubeでの配信や関係機関にDVDを配布</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・転倒予防体操の啓発を新たに広げていくとともに、既に啓発済みの団体にも、取組の継続を働きかけた。 ・身近な地域に転倒予防体操を広げるために、支援者の育成を図った。 ・転倒予防体操の動画を作成し、身近な集まりや自宅でも気軽に体操に取り組むことができるようにYouTubeでの配信やDVDを配付した。</p>	<p>《グループ数》 20 《参加人数（延べ）》 8,869人</p> <p>《転倒予防リーフレット配布数》 760枚 《転倒予防体操に取り組んだ人》 6,790人</p> <p>《転倒予防チラシ（住環境改善）配布数》 254部</p> <p>※一部の元気づくりステーションやサロンで、普段の活動の中で転倒予防体操を取り入れたほか、地域の支援者を育成し、身近な地域で、転倒予防体操を実践した。</p>

課題2	高齢者の冬場の溺死・溺水件数が多い	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
ヒートショック 予防の普及	<p>① 実施者・協働者 高齢者安全対策分科会、民生委員、保健活動推進員、地域包括支援センター、区役所</p> <p>② 対象 ヒートショック出前講座受講者、分科会委員所属団体、イベント等来場者</p> <p>③ 実施内容 リーフレットやポスター、アンケートを活用したヒートショック対策の説明</p> <p>④ 過去一年間の改善点 自治会掲示板の他、新たに区内の医療機関や薬局にポスター掲示を依頼し、多くの人が目につきやすい場での啓発の工夫を行った。</p>	<p>≪リーフレット配布数≫2,192部</p> <p>≪出前講座等参加人数（延べ）≫54人</p>

災害安全対策分科会

課題1	＜地域防災拠点の課題＞学校との連携・実践的な訓練の必要性	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
実践的な防災拠点訓練の実施	<p>① 実施者・協働者 分科会委員、地域防災拠点運営委員、区役所</p> <p>② 対象 地域防災拠点運営委員</p> <p>③ 実施内容 ・情報受伝達、特設公衆電話使用、要援護者対応訓練の推奨</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・新型コロナウイルス感染症の影響を加味し、5か年計画の柔軟な見直しを実行。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の形式で拠点訓練を実施することが困難であった。また訓練を行った12拠点のすべてにおいて、新型コロナウイルス感染症対策の訓練ないし講義が実施された。</p>

課題2	＜災害時要援護者支援の必要性＞訓練を実施しているのは一部のみ	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
災害時要援護者支援の取組拡大	<p>① 実施者・協働者 区役所、自治会・町内会</p> <p>② 対象 自治会・町内会</p> <p>③ 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町内会が実施する災害時要援護者避難支援訓練の経費の一部に対して補助金交付。 ・取組啓発のため講演会実施。（動画配信） <p>④ 過去一年間の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金交付について、より積極的な活用を目的とし、対象経費の見直しを行い、「発災時を想定した取組」のみでなく、「啓発活動」「日頃からの取組」も対象に加えた。（令和3年度から実施済）。 	<p>≪補助金を交付し、訓練を実施した自治会・町内会数≫</p> <p>6自治会・町内会</p>

課題3	より身近な避難所の必要性	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
地域避難所の設置及び訓練実施	<p>① 実施者・協働者 自治会・町内会、分科会委員</p> <p>② 対象 自治会・町内会</p> <p>③ 実施内容 地域避難所選定の推奨</p> <p>④ 過去一年間の改善点 自治会、町内会での防災講演等に加えて、2年度に制作した「栄防災ノート」も活用した啓発を行い、地震だけでなく風水害等様々な災害においても開設してもらえるように周知した。</p>	<p>≪地域避難所選定箇所数≫ 68箇所</p>

自殺予防対策分科会

課題1	自殺問題への理解と自殺予防の必要性啓発	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
啓発活動の展開	<p>① 実施者・協働者 分科会委員、委員の所属する団体の職員、利用者、区役所</p> <p>② 対象 通勤通学者、学生の親世代、一般区民</p> <p>③ 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前で啓発グッズ配布 ・ 図書館での企画展や区民まつりでのパンフレット配布 ・ 他事業での説明、パンフレット配布 <p>④ 過去一年間の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携事業の拡大（献血事業） 	<p>≪大船駅キャンペーン、本郷台駅周辺キャンペーン、本郷台駅前祭り、いたちまつり、区民まつり≫ 新型コロナウイルスの影響により中止</p> <p>≪図書館での企画展≫ 9月に実施</p>

課題2	自殺予防の担い手育成	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
ハートフル サポーター	<p>① 実施者・協働者 区役所精神保健福祉相談担当職員、外部講師、関係機関</p> <p>② 対象 ・ 栄区役所職員のうち、新採用、転入者等 ・ 地域の支援者（栄区保健活動推進員は隔年で研修実施、栄区民生委員児童委員を対象）</p> <p>③ 実施内容 ・ さかえハートフルサポーター養成基礎研修 ・ 区レベルセーフティネット会議（生活困窮者自立支援法に基づく支援会議） ・ 警察、消防、病院との連携会議（行政連絡会）</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・ コロナのため、研修の実施は難しい状況だった。一方、関係機関での課題検討を実施し、活動の必要性を共有した。</p>	<p>≪養成研修実施回数≫ 1回（職員1回） 地域の支援者向け研修はコロナのため、中止</p> <p>≪研修受講者数≫ 24人</p> <p>≪活動への参加≫ コロナのため集計できず</p> <p>≪関係機関の会議における課題検討と情報共有≫ 行政連絡会 1回実施</p>

課題3	自殺のハイリスク者への介入	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
ハイリスク者への支援強化	<p>① 実施者・協働者 自殺予防対策分科会委員の属する機関職員等</p> <p>② 対象 ア：栄区内医療・福祉等事業者など イ：自殺ハイリスク者</p> <p>③ 実施内容 ア：メンタルヘルス支援ネットワークの実施による、支援者のスキルアップ イ：自殺ハイリスク者向けのパンフレット、リーフレット、カードを活用した相談支援</p> <p>④ 過去一年間の改善点 ・ コロナのため、ネットワーク会議は中止。各機関での相談支援で、パンフレットを活用することで、リスクのある方への働きかけを継続した。</p>	<p>《メンタルヘルス支援ネットワーク》 コロナのため中止</p>

防犯対策分科会

課題	振り込め詐欺の増加	
プログラム	対策内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）	2020年度の実績・成果
振り込め詐欺の被害者層への啓発実施	<p>① 実施者・協働者 自治会・町内会、栄防犯協会、栄防犯指導員連絡協議会、栄区商店街連合会、栄区消費生活推進員の会、栄警察署、分科会委員、区役所</p> <p>② 対象 高齢者</p> <p>③ 実施内容 講座・講演による振り込め詐欺の啓発、金融機関での声掛け、防犯情報配信</p> <p>④ 過去一年間の改善点 多くの区民の方に防犯意識を持っていただくために啓発物品を作成し、自治会町内会等へ広く啓発活動ができた。</p>	<p>毎月10日に青色回転灯パトロールの実施</p> <p>≪金融機関での声掛け回数≫ 6回（13箇所）</p> <p>≪街頭キャンペーン等の啓発≫ 2回</p> <p>≪防犯情報配信≫ 52回</p>